

おんださい
恩田井水

豊かな水田地帯への変革

阿智村の^{こか}伍和地区は、地形が急峻で川が集落の遙か下を流れており、明治の頃まで井戸水の確保も困難な土地だった。漢方医の太田^{そうせき}宗硯は、1860(万延元)年より地形測量を行い、別の流域にある恩田川から伍和へ水を引けることを確信した。太田宗硯没後、1894(明治27)年に恩田井水組合が工事を開始し、1898(明治31)年、日の入峠を越えて引き入れた延長6.5mの井水が完成した。その後、さらに井水は延長され、水田80haが灌漑されるようになった



道路上に渡された高架橋井水



サイフォンにより道路の下を流れ、反対側よりわき出している水路



恩田井水記念碑は、1926(大正15)年に建立され、1927(昭和2)年に除幕式が行われた

information

- アクセス
飯田山本ICから5Km
車→10分
- 所在地
阿智村



別水系の恩田川から水を取水し、北流する大沢川に一度落とす。その水が松沢山山腹を迂回しつつ、日の入峠を越え伍和の村に流れこむ。用水はサイフォン水路や、道路上に渡された高架橋井水などにも形を変え、村の隅々まで、末端は下條村まで潤している。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)